

▼ アリマタヤのヨセフの決断 ▼

校長 阿南 孝也

聖書には、イエス・キリストと出会い、人生が大きく変えられた人たちが登場します。アリマタヤのヨセフもその一人です。彼の名は、イエスの埋葬に深く関わった人物として、四福音書の全てに登場します。

「イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れてそのことを隠していた」

ヨハネ福音書 19章 38節

彼はユダヤ最高法院の議員でした。大祭司の邸宅でのイエスの尋問にも同席していました。聖書には「決議には同意しなかった」と書かれていますが、保身を図って生きてきた彼のことです。イエスの処刑に積極的に反対したというよりも、賛成に手を挙げなかっただけなのかもしれません。ところが、ペトロはじめ使徒たちが怖くなって逃げだした後も、彼は処刑の場に留まったのです。

「夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。この人がピラトの所へ行って、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。そこでピラトは、渡すようにと命じた。ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った」

マタイ福音書 27章 57～60節

イエスが亡くなったのは、金曜日の午後3時ごろと聖書に記されています。ユダヤでは、日没で一日が終わります。次の日は安息日なので、十字架から降ろすことができなくなってしまいます。わずかな時間の間に、彼は人生を変える大きな決断をしたのです。イエスの弟子であることを公言することによって、地位も財産も失い、迫害されるかもしれません。このヨセフの勇氣ある行動によって、ヨセフの用意した墓が、イエス復活の舞台として用いられることになったのです。

いつどこで、あるかないかも不確かです。でも突然、人生を左右する分岐点に立たされることがあるかもしれません。そのとき、正しい道を選び取り、勇氣を持って歩いていくことのできる人でありたい、そう願っています。

〈前期末考査を終えて〉

本日、前期末成績をお届けしました。点数だけではなく、内容をご覧いただき、ご子息とよく話し合ってください。そしてよかった点や悪かった点を見つけて、その原因を探してほしいと思います。日々の学習を妨げるものがあるとすれば、思い切って決別することが必要でしょう。

本日の保護者会が、ご子息がこれまでの生活を振り返り、よりよい方向に進むきっかけとなってくれることを期待しています。